2024 年（令和 6）1 月 26 日

第一回技術委員会を開く

急傾斜地工事の課題をシートにまとめ意見を交わす
相取工法の積算資料も提示

急傾斜地工法研究会・相取工法協会

急傾斜地工法研究会と相取工法協会は 1 月 26 日、北海道中小企業会館（プレスト 1 ・ 7）で第一回の技術委員会を開き、急傾斜地工事の課題について意見を交わした。

会場には、両会役員や技術委員など 18 人が出席し、当面の課題解決に向け問題提起と意見交換を行った。

初めに中塚卓朗会長が「課題解決によってさらに良い工法を目指したい。初会合ではあるが有意義な会議になるよう、きたんのない意見を頂きたい」とあいさつ。関係する建設管理部での相取工法の現状を説明し、積算に反映できるよう促進したいと話した。

加賀谷俊明技術委員長の進行で、事前に抽出した問題点 8 項目を課題解決シートにまとめ、いくつかの解決策を示しながら意見を求めた。会議の中では、設計に含まれていない作業の回避や、安全上問題となる部分を他に置き換えられないかなどの意見が出された。またコンサルタント会社の委員からは、施工方法の基本となる発注者側の考え方や経緯、過去の事例とのすり合わせなどの情報も寄せられた。施工者側の負担軽減、安全確保、手待ち時間短縮などには今後も発注者との継続協議が必要だが、事務局で取りまとめ解決できそうなものは早期に、それ以外も引き続き解決の可能性を探るとした。

続いて大塩進一事務局長から相取工法協会で作成した積算資料が提示され、ジブクレーンの拘束費、鋼製足場など算定基準の明確な根拠を示すとともに、現行の技術指針の見直し部分も提案し検討材料に加えた。

山根浩副会長は「施工する側として一企業では言いにくい課題も、こうした場で複数の意見を集約しながら解決に導きたい」とまとめた。

会議は 2 時間半におよんだが、技術委員らが設計する側、施工する側の立場で貴重な意見、情報を出し合った。委員会では、工法がさらに安全性に優れたものとして確立するため、定期的に開催をする予定だ。また終了後には懇親会も開き親交を深めた。